

# 所 報

題字：武田満之校長（平成9年、野幌中学校）

第135号 平成30年1月23日

## 江別市教育研究所所報

江別市高砂町24-6 TEL 381-1058  
(主な内容)

- ・平成29年度学力向上策ヒアリングを終えて
- ・江別市教職員冬期セミナーについて
- ・どさん子元気アップチャレンジについて



## 平成29年度学力向上策ヒアリングを終えて

江別市教育委員会 学校教育課指導主事

本年度の「学力向上策ヒアリング」を9月中旬～10月上旬にかけて実施しました。お忙しい中、校長先生、教頭先生はもとより主幹教諭、教務や研究等の担当の先生方の出席をいただきました。各学校の実態を踏まえた特色ある学力向上の取組について伺うことができ、誠に有難うございました。

江別市の小・中学校の全国学力・学習状況調査の結果と江別市学校改善支援プランより課題改善策の一部抜粋、各学校の特色ある学力向上の取組の一部を紹介させていただきます。

なお、全国学力・学習状況調査の詳しい結果は、江別市教育委員会のホームページに掲載されています。

### 1 平成29年度 全国学力・学習状況調査の江別市の調査結果 [平均正答率:単位(%)]

教科	小 学 校				中 学 校			
	国語 A	国語 B	算数 A	算数 B	国語 A	国語 B	数学 A	数学 B
江別市	75	57	79	44	78	74	67	49
北海道	74	56	77	44	77	72	64	47
全 国	74.8	57.5	78.6	45.9	77.4	72.2	64.6	48.1

#### <教科に関する調査結果>

##### (1) 小学校

平均正答率は、北海道との比較では、国語A・B、算数Aの3教科で北海道を上回り、算数Bは北海道と同様です。また、全国との比較では、国語A、算数Aの2教科で全国を上回り、国語B、算数Bの2教科で全国を下回っています。

##### (2) 中学校

平均正答率は、北海道との比較では、すべての教科で北海道を上回っています。また、全国との比較でも、すべての教科で全国を上回っています。

#### <質問紙調査に関する結果の概要>

- 平日に3時間以上テレビやビデオを見る割合は、小学校6年生は全国と同様で、中学校3年生は全国平均を下回っています。平日にテレビゲームを3時間以上する割合は、小学校6年生、中学校3年生ともに全国平均を上回っています。
- 「授業中の私語が少なく、落ち着いていると思う」、「礼儀正しいと思う」割合は、小学校6年生、中学校3年生ともに全国平均を大きく上回っており、江別市の学校は大変落ち着いた状態にあると言えます。
- 算数・数学の授業でICT機器を活用して授業を行った割合は全国平均を上回っています。

## 2 調査結果から見られる課題の改善のために（平成29年度「江別市学校改善支援プラン」より）

- ア 全国学力・学習状況調査を活用した、継続的な検証改善（P D C A）サイクルを確立し、学校がチームとして学力向上の取り組みを推進していく必要があります。
- イ 学習活動の質的な向上を目指し、「見通し・ふり返り」をキーワードに「主体的・対話的で深い学び」の視点を踏まえた授業改善と「カリキュラム・マネジメント」の確立、ICT 機器やデジタル教科書の効果的な活用、家庭学習の習慣化、放課後や長期休業期間中等における補足的な学習サポートを継続する必要があります。
- ウ 児童生徒は落ち着いて授業に臨んでいますが、望ましい生活リズムの確立や授業と宿題を関連付けた家庭学習の定着に向け、学校と家庭が緊密に連携した取り組みを継続する必要があります。
- エ 「自分にはよいところがあると思う」と回答した児童生徒の割合が、全国平均を下回っていることから、引き続き教育活動全体を通じて、自己肯定感、自己有用感を高める教育を充実する必要があります。
- オ 読書が好きな児童生徒の割合は全国平均を上回っていますが、朝読書や読み聞かせ等、学校図書館や公共図書館の活用、家庭での読書の働きかけも含めて読書活動の充実を図る取組を継続する必要があります。
- カ 中学校区内の小中学校間で、学校改善プランや学力調査等の結果、学習規律や家庭学習の習慣化など、児童生徒の学習状況について情報を共有し、また、指導内容の系統性や関連性を踏まえ、重点的に取り組む指導内容を明らかにして、学力向上に向けた小・中連携を一層推進する必要があります。

## 3 特色ある学力向上の取組

各学校の学力向上の取組の一部を紹介させていただきます。いずれの学校でも、基礎・基本の定着や学習習慣の確立等に意欲的に取り組んでいただき、感謝申し上げます。

### (1) 学校全体での組織的な取組

- 全国学力調査や標準学力検査の結果分析を行い、具体的な改善策を定め、組織的に学力向上の取組を進めています。研究テーマに学力向上を位置づけ、授業改善や学習規律の徹底、学習習慣の定着等に学校ぐるみで取り組んでいる学校が増えています。

### (2) ICT 機器や指導用デジタル教科書の効果的な活用

- ほとんどの学校で、ICT 機器が日常的に活用されていますが、学力調査質問紙の結果から、週1回以上の利用に至っていない学校が、まだあることから、指導の効果を一層高めるためにも、ICT 機器やデジタル教科書の積極的な活用をお願いします。
- 教室内の ICT 機器の設置位置を統一したり、スクリーンにホワイトボードを利用したり、各教室の壁に規格を統一して自作スクリーンを常設するなど活用しやすい環境づくりが進んでいます。
- 「ICT 通信プリウス」で授業での実践的な活用を紹介していますので、ご参照ください。

### (3) 学習規律

- 各小中学校では、学習規律や礼儀正しさについて、継続的に丁寧な指導されています。各小中学校では学習の約束を掲示・配布し、また、ラミネートにして全校生徒に配布している学校もあります。

#### (4) ノート指導と板書

- 学年の発達段階に応じた使い方や「課題」、「まとめ」を決められた色で囲む、「考え」を書くスペースを設けるなど、学校全体で統一したノート指導を行う学校が増えています。
- ノート指導につながる「板書」を重視し、1時間の学習の流れや学習内容が一目でわかる構造的な板書にするため、指導案とともに板書案について校内研修に位置づけている学校もあります。

#### (5) 「見通し・ふり返り」をキーワードにした指導過程の見直し

- 導入段階で課題を明確にして、子どもたちが見通しを持って学習に取り組み、まとめの段階では、評価(確かめ)問題等を実施して定着状況の把握とサポートを行うなど、時間内に学習内容を確実に定着させる指導の継続が大切です。

#### (6) 「主体的・対話的で深い学び」

- 自分の考えをもち、相手や目的を意識して情報を収集して表現するために、ペアやグループによる話し合いや交流を積極的に取り入れた授業改善の継続が大切です。
- 調べたことや考えたこと、要約など、目的に応じて字数の制限や条件に基づいて書くことができるよう、国語科をはじめ他の教科において書く活動の取り組みを進めている学校もあります。

#### (7) 家庭学習の習慣化

- 全国学力調査の結果から、「家で、学校の授業の復習をしている」と回答した児童生徒の割合が、全国を上回っています。学習内容の確実な定着や、家庭における学習の習慣化に向けて、ほとんどの学校が週末も含めて計画的に宿題を出しています。週明けに確認テストを行っている学校もあります。

#### (8) 小・中学校の連携

- 全ての中学校区で推進会議を立ち上げ小・中連携を推進しています。9年間の指導内容の系統性や関連性を踏まえた学力向上の取組をさらに充実していただくようお願いいたします。

\*\*\*\*\*

### **平成29年度 教職員冬期セミナー**

**123名が参加、満足度は、82.0%**

「平成29年度江別市教職員冬期セミナー」は、平成30年1月9日(火)と10日(水)の2日間にわたって行いました。

各学校の補充授業等の関係で、昨年度から年明けの1月に開催しております。昨年の150名には届きませんでしたが、新年早々にも関わらず、多くの先生方に参加していただきました。この場を借りてお礼を申し上げます。

以下、各講座の様子についてお知らせいたします。

### 【①外国語教育】



北海道立教育研究所研究主事の松永祐子氏を講師に迎え、「学習指導要領改訂のポイント」「小学校外国語活動・外国語の目標及び内容」「外国語活動・外国語の授業づくり」を説明していただき、その後、グループに分かれてバックワードデザインによる「外国語活動・外国語の授業づくり」の演習を行いました。



### 【②プログラミング教育】



北海道立教育研究所企画研修部主査の小野篤夫氏を講師に迎え、豊富な資料に基づき「小学校段階におけるプログラミング教育のあり方について」「学習指導要領における位置づけ」などを説明していただき、「論理的思考力を育む学習例」や「今後のプログラミング教育の取組」についてもお話していただきました。



### 【③ICT研修】



はじめに渡邊光太郎 ICT教育支援員から、これまでの取組の概要を説明した後、第一小の青木啓洋先生、山本和彦先生（石原寿一先生の代理説明）、第三中の佐藤一先生から、それぞれ小学校や中学校での実践発表があり、続いて山口広宣先生の指導の下、実際に一人一人タブレットを持ち、その使い方を演習しました。



### 【④特別支援教育】



講師には、北海道医療大学の橋本竜作准教授をお迎えし、学習障害について「医学的な診断基準」と「教育的な判断基準」の違いなどについて説明していただき、後段では、具体的な症例を大変わかりやすくお話していただきました。



## 「どさん子元気アップチャレンジ」～短縄跳び全道大会～教育長が授与

- 《前期学校部門》  
4年生の部 1位 田代 優月さん（大麻西小学校）  
2年生の部 2位 菊地 渉太さん（大麻西小学校）
- 《家庭・地域部門1期》  
1年生の部 1位 佐々木 旺太さん（大麻西小学校）  
2年生の部 2位 関本 和志さん（野幌若葉小学校）  
4年生の部 3位 今 皓大さん（野幌若葉小学校）



道教委では、学校における体力向上の取組の充実や児童・生徒の運動習慣等の確立に資するため、平成22年度から「どさん子元気アップチャレンジ」を実施しています。今年度前期では、上記の方々が全道3位以内に入り、道教委から記録証が送られてきました。江別市教育委員会では、平成27年度から記録証とともに、市教委で作成したメダルも併せて贈呈することとしており、今回も5名の方々に贈呈することになりました。今回は日程の都合で、12月22日に大麻西小学校において、月田健二教育長から直接3名の児童に記録証とメダルが授与されました。

各学校においても、体力づくりに取り組み、チャレンジしてほしいと思います。